

2013.12.5 (木) 社会学部チャペル

「積極的に待とう！」

大岡 栄美 社会学部准教授

「待つ」という言葉にどんなイメージをもっているでしょう。忍耐や我慢などどちらかというと「マイナス」のイメージを持ってはいないでしょうか。例えば待ち合わせをして相手が遅れると、待っている時間ものすごく「損」した気分にならないでしょうか。こうした「待つ」ということを是としない価値観は、もしかすると現代特有のものかもしれません。様々な技術が生み出され、効率的なサービスこそが質の高いサービスと考えられるようになった現代では、スピードが遅いこと、つまり待たなければいけないことは、マイナスの意味合いを帯びて受け止められています。

しかし、「待つ」という行為にも「積極的な待ち」と「消極的な待ち」がある、待つという行為をポジティブに受け止めることができるのではと考えさせられるきっかけがありました。あだち充さんの漫画「H2」がドラマ化され、甲子園出場を目指す野球部漫画の中の名言に触れたのです。簡単にどんなエピソードか説明させてください。

デートの待ち合わせをしていた、まだ付き合っていない野球部のピッチャーとマネージャーの高校生男女がいました。いろんな行き違いがあって、朝9時の待ちあわせのはずが、男の子が到着したのが昼の12時。つまり3時間も女子を待たせてしまいました。怒ってもう待っていないかと思いきや、女の子は持ってきた小説に読みふけりながら、喫茶店で3時間彼を待っていました。「野球の練習で疲れていると思ったから電話もしなかった」という彼女に、結果待たせることになってしまった方の男子は「だったらなんで朝9時なんて早い時間に待ち合わせたのか」と問いかけます。それに対して、彼女は「待ってる時間も、デートの内でしょ。デートの時間は、長い方がいいもん」と答えます。

このエピソードは私に改めて「待つ」ことは必ずしも消極的な行為ではないこと、積極的に待つ、未来に得られる大きな喜びへの準備期間を豊かに「待つ」という待ち方があることを教えてくれました。待つことは未来への希望が詰まった素敵な行為でもあるのです。漫画の彼女は彼が遅れることも想定し、来ないことも恐れず、待っている間も今日はどんな時間になるかを楽しみ、1人でもデートの時間を積極的に楽しんでいたのです。

私たちの生活の中で、「待つ」、「待たなければならない」という状況は頻繁に生じます。電車が遅れる、店が混んでいて注文した食べ物なかなか来ない、頼んでいた買い物の配送が遅れるなど。そうした場合私たちは「待たされる」という受動的な状態に陥り、不十分な

サービスへの怒りを押さえ、我慢することになります。「待っている間も食事のうち」なんて悠長なことは口にすることはできず、サービスの質の低さに目が行き、待たされたことへの不満で楽しい時間を自ら駄目にしてしまうということがあります。しかしその一方で、待つでも食べたいお店に行列を作り、同時に待ちながら、その時間を楽しむということも実は行っているのです。

なぜこうした違いが出てくるのでしょうか。やはりこの違いは「自分」がその状況をどうコントロールするか、という能動性、主体性の違いにあるのではないのでしょうか。人から「待たされて」待つと感じる時、その行為の主導権は自分ではなく相手にあります。お店でも、品物でもそれは同じです。でも自分で選択し、望んで「待っている」という場合はどうでしょう。漫画の例同様、自分が能動的にその結果起こる未来への希望をもてた時、待つことは忍耐や苦勞やマイナスのイメージから解き放たれるのではないのでしょうか。

現代人は私も含め、待つことが苦手になっていると感じます。例えばメール一つをとっても、返事が来ないと「待たされている」と感じ、相手に即レスを求めるような風潮があります。待った後にある未来よりも、現在の不安や不満の解消を優先させているのではないのでしょうか。自分や自分の学び、成長に対してはどうでしょう？充実した大学生活を送れている人もいるかもしれませんが、思ったよりも楽しくないと感じている人も中にはいるかもしれません。でもいま性急に結論を出すよりも、「面白くなるのを待つ」ことも大切ではないでしょうか。

もちろんその待つというのは、ただ待っている、時が過ぎていけば誰かが面白くしてくれるのを待つという消極的な行為を指しているわけではありません。自分にはまだたくさんの出会っていない人がいて、出会っていない授業や知識があって、その現在からは見えていない未来にちょっと期待してみる。その未来へ希望に向かって、自分が選択すること、多くのアクションを起こし、「積極的な待ち」を数多く作り出していくこと、そうしたら気がついたときには「待っている間も充実した大学生活」になっているのではないのでしょうか。